

令和5年度 東金市立保育所・認定こども園 自己評価 (所・園内研修まとめ)

全所・園共通テーマ

「生きる力を育む」



写真:第2保育所「雨の日 散歩」

もくじ

保育理念・方針・めざす子ども像	1
令和5年度 教育及び保育の内容に関する全体的な計画	2
所内研修まとめ（第1保育所） 「子どもと共に育つ私たち」～語り合うことから始まる保育～	7
所内研修まとめ（第2保育所） 「個性に寄り添う保育」～多角度から援助を探る～	13
所内研修まとめ（第3保育所） 「子どもの心の育ちを考える～人との関わりの中で～」	19
園内研修まとめ（豊成こども園） 「異年齢交流～友だちとの関わりの中で見える子ども達の姿～」	25
園内研修まとめ（福岡こども園） 「一人一人が輝くための保育を目指して～職員間の共通理解を深める～」	31

各所・園の資料は、概ね次のような構成となっています。

- 表紙
- 所・園のサブテーマ(昨年度の反省・子どもの姿・保育者の願い・仮説・手立て・研修方法等)
- 所・園内研修の経過
- 外部講師による教育・保育の質の向上のための巡回指導を受けての課題等
- 所・園内研修の成果と課題
- 自己評価に関する観点からの評価
 - 【1】保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価
 - 【2】計画に基づく評価
 - 【3】家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価
- 所・園内研修の総まとめ
- 所・園内研修の事例集 ※事例集は別冊とし、非公表としています。

保育理念

乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。

教育・保育目標

「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む

方針

- 「生活」と「遊び」を通した学びにより様々な体験を重ね、豊かな感性や創造性、好奇心を育てます。
- 子どもたち一人一人の個性を大切にし、そのよさをさらに高め、子どもたちが自分を伸びやかに発揮できるよう努めます。
- 同年齢、異年齢の友達とのかかわりの中で、お互いを大切に思いやる心を育てます。
- 子どもたちが健康で安全に生活できる環境を整え、丈夫な体づくりのための食育の推進や基本的な生活習慣・態度を身に付けられるよう支援します。
- 子どもたちが健やかに成長していけるよう、家庭や地域との連携を密にし、共通理解を図ります。
- 地域における子育ての支援のために、乳幼児の教育・保育に関する相談に応じ、助言するなどの社会的役割を果たします。
- 一人一人の特別なニーズに応じた適切な支援を行うとともに、集団活動を通して、全体的な発達を促します。
- 学校教育への円滑な接続のための基礎を培います。

めざす子ども像

- *仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。
- *思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。
- *自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。
- *あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。

基本理念 乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
		1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
		2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
		3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
		4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
めざす子ども像		5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。
第1保育所の教育・保育目標	子どもと共に育つ私たち ~語り合うことから始まる保育~		

●幼稚園: 基本保育時間→9:00~14:00 *預かり保育 14:00~16:30 ●保育所: 基本保育時間→7:30(8:00)~18:30(16:00) *延長保育時間→7:00~、~19:00 ●認定こども園: 基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所の利用は保育所と同じ。 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。	行事のねらい 日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割
--	--

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育 ・一人一人の子どもの姿をよく見て、声を聴いて、しっかりと気持ちに寄り添いながら日々の活動に意欲的に取り組める環境を整えていく。	発達の連続性に配慮した教育・保育 ・年齢ごとの発達の筋道を理解するとともに、個々に応じた関わりを意識し、職員間での語り合いから子ども理解を深め実践を展開していく。	異年齢との関わりを大切に教育・保育 ・“見て学ぶ”経験を積み上げていける環境設定を積極的にしながら、様々な年齢との交流の機会を深めていく。	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育 ・職員の間で共通理解の下、健康で安全に過ごせる環境を整えていく。 ・様々な経験を積みながら健康で丈夫な身体作りをしていくことを心掛けるとともに、年齢に合わせた安全に対する意識も高めていく。	食育を推進する教育・保育 ・栽培や収穫の経験・自分で調理する経験を通して「食」に対する興味や関心を高めていく。また、食物と身体作りの結びつきについて、年齢に合わせた理解を持てるようにする。	インクルーシブな教育・保育 ・それぞれの個性を大切にしなが、よりよい発達をしていけるよう、家庭や専門機関との連携を図るとともに、保育所全体で共通理解をもって関わっていく。
---	---	---	---	--	---

教育課程・育ちの過程

	年齢	0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児	家庭との連携	
養護 生命の保持 情緒の安定		○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。 ○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異なる年齢と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びの中に取り入れていく。	○体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。 ○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。	・連絡帳や保育所だより、ポートフォリオ等の媒体を通して、保育所での子どもたちの様子を伝えたり、送迎時の対話を積極的にもちたりしながら、子どもの理解を深めるとともに、子どもの成長の喜びを共有し合っていく。 小学校への円滑な接続に向けた教育・保育 ・アプローチャリキュラムを有効に活用し、小学校との接続を意識していく。 ・小学校との連携を図り、可能な範囲での交流会に参加したり、子どもの様子を伝え合ったりしていく。また、保育所生活に対する理解を深めてもらえるような発信を心掛ける。
		○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななまじりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや	○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたったりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	・世代間交流会を企画・開催し、地域のお年寄りとの関わりをもつ。 ・次年度の国際こども園への移行を意識し、東金幼稚園の園児との交流保育の機会をもつ。 保護者及び地域の子育て家庭への支援 ・育児に対する悩みや不安を少しでも解決できるよう、電話相談等を通して情報提供をしていく。また、園庭開放の実施が可能になった際には、地域の子育て家庭の親子の受入れを積極的にやっていく。	
教育及び保育 健やかに伸び伸びと育つ 身近な人と気持ちが通じ合う 身近なものとの関わり感性が育つ								研修・研究計画 研究テーマ 生きる力を育む ・子どもを育む保証することを大切にするとともに、日々の保育を通して職員同士が語り合うことを積極的に行いながら「話す・聞く・伝える」実践を通して研修を進めていく。	
								園の自己評価 評価方法 所内研修を通して振り返り ・職員間での語り合いを理やすことで、保育がどのように変わっていくのかを検証しながら日々過ごしてきた。何気ない語り合いの中から環境構成の見直しや子どもへの関わり方のヒントを得て実践へと繋げることができ、子どもの生き生きとした姿を引き出すことができた。また、保護者との対話を通して共に子育てをしていることを実感し、喜びを共有しあいが深まることができた。	

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
	教育・保育目標		1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
			2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
			3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
			4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。			
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜び。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめなめで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。			
第2保育所の教育・保育目標	「個性に寄り添う保育」～多角度から援助を探る～			

行事のねらい	●幼稚園：基本保育時間→9:00～14:00 *預かり保育 14:00～16:30 ●保育所：基本保育時間→7:30(8:00)～18:30(16:00) *延長保育時間→7:00～、～19:00 ●認定こども園：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所利用は保育所と同じ。 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。	日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割
---------------	--	---

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切に教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
一人一人が安心して自分の気持ちを表すことができるよう関わっていく。子どもたちの育ちを認め、自己肯定感を育てていけるような関わりをしていく。	個人差があることを十分考慮しながら、一人一人の発達を見通し保障するために年齢にあった環境を整え発達を促していく保育を行う。	年上児にしてもらった経験を年下児にしてあげるといった循環を大切に、関わりを多く持ち互いに刺激しあう関係性を築いていけるような関わりをしていく。	心も身体も共に健康であるよう、様々な経験が出来る環境を整える。	健康な生活の基本「食を営む力」の育成に向けその基礎を培うことを目標とし、栽培や収穫を通し食への関心を高め、たくさん遊び空腹を感じ、バランスよく食べて空腹を満たすという遊びと食事の関係性も考慮する。	どのような個性をもつ子ども皆同じ仲間という認識の下、保育所全体で育てていくという職員の間で共通理解をもつて関わっていく。また、家庭や関係機関との連携を図る。

教育課程・育ちの過程

	年齢	0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児	家庭との連携	
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないような環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。	○日々の園生活では、毎日の連絡帳でのやり取りや、登降時に保護者と情報を共有する等、密に連絡を取り合い保護者との信頼関係構築、子どもの理解へと繋げる。3・4・5歳児では、その日の出来事を掲示したり、登降時に様子を伝えたりする。また、保育所での子どもの様子を可視化し、育ちや学びの情報を発信する
	情緒の安定	○健康な生活の基本「食を営む力」の育成に向けその基礎を培うことを目標とし、栽培や収穫を通し食への関心を高め、たくさん遊び空腹を感じ、バランスよく食べて空腹を満たすという遊びと食事の関係性も考慮する。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないような環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないような環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○異なる年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身の近い自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななまに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な遊び	○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものを年長児のしている遊びを取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。	○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもつて関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりとしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	○地域との連携を大切に教育・保育 実施可能な状況となった時は世代間交流の企画をし実施。地域のお年寄りとの交流会を開催する。 ○保護者及び地域の子育てで家庭への支援 保護者へは、各クラスのドキュメンテーションを掲示したり通信を発行したりし、情報発信をしていく。また、地域の子育て家庭への支援としては、電話相談を実施する。	
	身近な人と気持ちが通じ合う	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現
	身近なものと関わり感性が育つ	○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	○健康 ○人間関係 ○環境 ○言葉 ○表現	
								園の自己評価	
								研修・研究計画	
								研究テーマ 「生きる力を育む」	
								評価方法	
								ホームページでの公表	

基本理念 乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
		1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
		2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
		3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
		4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
教育・保育目標 「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む	行事のねらい	5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。
めざす子ども像 ○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめなめで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。		日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割	
第3保育所の教育・保育目標 豊かな自然の中でのびのびと遊ぶ。			
●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00 ＊預かり保育 14:00～16：30 ●保育所：基本保育時間→7：30(8：00)～18：30(16:00) ＊延長保育時間→7:00～、～19:00 ●認定こども園：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所利用は保育所と同じ。 ＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。			

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切に教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
子どもの人権を十分に配慮し、一人一人の子どもが主体的に活動ができるようにしていく。子どもたちの気持ちに寄り添った保育を行い健全な心身の発達を図っていく。	一人一人の発達状態に合った保育を定期的、継続的に把握しながら、年齢に応じた環境を整え、職員が共通理解を図り、保育を行っていく。	幼児組は、5歳児クラス、3、4歳児クラス縦割り保育を行う中で、異年齢児との生活や遊びを通して他者への思いやりを育むと共に、乳児組、幼児組も関わる機会を多くもち、思いやる気持ちを大切にしていく。	全職員が相互に連携し、健やかな生活の確立を進めていく。また、事故防止のため、定期的に安全点検、訓練を全体で行っていく。衛生面には十分配慮し、感染症拡大防止に保育所全体で対応していく。	クッキングや菜園作りを通して、食への興味や関心を高め、感謝して食べるよう働きかけていく。また、保育者や友達と一緒に楽しく食事が出来るようにしていく。	家庭や関係機関と連携した支援を行うため、障害を職員全体で共通理解し、保育を進めていく。みんなと一緒に共に学び、共に育つことができるようにしていく。

教育課程・育ちの過程

	年齢	年齢					家庭との連携	
		0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児		5歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。 ○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななまきりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。 ○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。	保育所だより、連絡帳、クラスや各年齢でのポートフォリオ等で、保育所での子どもの様子を知らせたり、送迎時に家庭との連絡を密に図ったりしていく。 小学校への円滑な接続に向けた教育・保育 ネットワーク会議や幼保小研修会などの機会の際、小学校教師と意見交換や情報を共有し、保育所と小学校教育との円滑な接続に努める。
	情緒の安定	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	健康 ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 ○身の回りの環境に興味や関心	○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つくり遊びを楽しむ。	○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななまきりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなと一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。	地域との連携を大切に教育・保育 散歩に出かけ、地域の方に挨拶をする中で、交流がもてるようにしていく。また、地区行事に参加し、地域の方との交流がもてるようにしていく。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	人間関係 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。	○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななまきりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなと一緒に遊ぶ充実感を味わう。	保護者及び地域の子育て家庭への支援 子どもの育ちを共感し、子育ての喜びを感じられるように子育て支援に努める。また、地域の子育て支援として、毎月2回の電話相談を行う。地域性や専門性を活かして子育て世代の方との関わりを増やしていく。		
	身近な人と気持ちが通じ合う	環境 ○身の回りの環境に興味や関心	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。	研修・研究計画		
	身近なものと関わり感性が育つ	言葉 ○身の回りの環境に興味や関心	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなと一緒に遊ぶ充実感を味わう。	研究テーマ 生きる力を育む 心の育ちを考える～人との関わりの中なかで～をサブテーマとし、各年齢ごとに事例や、一枚の写真を基にグループに分かれ意見交換を行い、保育の振り返りをしながら進めていく。		
		表現 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そう	○保育者や友達と一緒に、見立て・つくり遊びを楽しむ。	○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	園の自己評価		
						評価方法 保育所職員間の話し合い 昨年度の反省を踏まえ、個々の育ちに目を向け、情報共有を行い連携して保育にあたった。複数担任間で話し合うことの重点をおいた。研修を通して、子どもの思いを受けとめ、仲立ちとなり気持ちに寄り添うしながら、子どもたちが自己を發揮できる方法を考え実践することができた。		

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。			
	教育・保育目標		「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む	1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。		
			めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめないうで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。	2歳児（満3歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。	
				豊成こども園の教育・保育目標	豊かな自然環境の中で、0歳児から5歳児までが異年齢交流を持ちながら成長していく。	3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育教諭や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
						4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
		5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。				

<p>●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00 *預かり保育 14:00～16：00</p> <p>●こども園・保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00） *延長保育時間→7:00～、～19:00</p> <p>●認定こども園：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所の利用は保育所と同じ。</p> <p>*2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。</p>	<p>行事のねらい</p> <p>日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。</p> <p>①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割</p>
---	--

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切に教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
個々の家庭環境の違いを踏まえ、集団生活の中で、個性を認め、一人一人に寄り添い、こどもが意欲を持って生活や活動ができるよう、計画を立てて実践していく。	一人一人の発達に合った活動や生活ができるよう計画を立てて働きかけを行い、こどもが自信を持って行動できるよう配慮する。	遊びの中で異年齢児とのかかわりを持ち、思いやりの心やいたわりの心を持ってよう、人的環境・物的環境を整える。	コロナウイルス感染症が今年度5月から5月に引き下げられることを受けて、マスク着用は緩和されたが、引き続き手洗い消毒を心掛ける。心も体も共に健康である様、いろいろな経験が出来る環境を整える。また職員の見守り、遊具の点検、遊び方を知らせると同時に子ども自らの気づきも大切に安全に配慮する。また散歩など園外に出る時には交通ルールを知らしめるようにする。	0歳児から5歳児まで各年齢で食への興味・関心を高め、幼児組では栽培・収穫・調理などを通して、食べることの楽しさを体験する。	すべての子供にとって充実して楽しく・すべての子供にとって優しい教育・保育を行う。その中で支援が必要な子どもの個別支援計画を作成する。

教育課程・育ちの過程

	年齢	教育課程・育ちの過程					家庭との連携		
		0歳児	1歳児	2歳児（満3歳児）	3歳児	4歳児	5歳児	地域との連携	保護者及び地域の子育て家庭への支援
生命の保持	養護	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。 ○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育教諭を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のものなきまきりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びの中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育教諭や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや	○体や病気について関心をもち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。 ○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。	○、1、2歳児では、連絡帳でのやりとりや登降所時に保護者と情報を共有するなど密に連絡をとりあい保護者との信頼関係を築いていく。クラスごとにこども園での子どもの様子を可視化（ポートフォリオ・ドキュメンテーション）し書きや学びの様子を発信する。	小学校への円滑な接続に向けた教育・保育 小学校との連携を図りスタートカリキュラムを活用し、卒園までに育てて欲しい10の姿を共有して円滑に小学校生活が送れるようにする。
		情緒の安定	健康	人間関係	環境	言葉	表現	地域との連携を大切に教育・保育	保護者及び地域の子育て家庭への支援
健やかに伸び伸びと育つ	教育及び保育	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。 ○保育者や友達に関心をもち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そう	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のものなきまきりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びの中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育教諭や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや	研究テーマ ： 生きる力を育む 研修委員会を中心に「異年齢交流」を豊成こども園のテーマと決めて所内研修を行い、職員の共通理解と資質向上を図る。継続していくことができれば、日常の職員間での話し合いを大切に同じ方向を向いて教育保育していかれるようにする。	園の自己評価 評価方法 伊藤恵理子先生巡回指導・所内研修 園内研修だけでなく日常会話の中で保育について話しを多くしたことで保育者同士の共通理解深まり、異年齢交流もスムーズだった。正規職員だけでなく会計年度職員も自由に意見や提案ができる環境があり、園全体が落ち着いた雰囲気になってきた。保育者自身も落ち着いてきたことで1年を通して大きな成長もなかった。これまでの成果だと思う。外でのコーナー遊びの発展に課題が残る。	

基本理念 乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
		1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
		2歳児(満3歳児)	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
		3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
		4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
教育・保育目標 「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む		5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●1号認定：基本保育時間→9:00～14:00 *預かり保育 14:00～16:30 ●2・3号認定：基本保育時間→7:30(8:00)～18:30(16:00) *延長保育時間→7:00～、～19:00 ●認定こども園：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所の利用は保育所と同じ。 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。	行事のねらい 日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割
---	--

特に配慮すべき事項

一人一人を大切に教育・保育 子どもの最善の利益を守り、心身ともに一人一人の健やかな育ちや豊かな心、逞しく生きる力を育んでいく。子どもの思いや気持ちに寄り添い、友達、保育者、地域の人々など、様々な人との関わりを大切にしていく。	発達の連続性に配慮した教育・保育 年齢に即した環境作りを心掛けながら、職員が共通理解を図りながら、発達の見通しをもって子どもに関わり、一人一人の発達を保障していく。	異年齢との関わりを大切に教育・保育 日々の保育の中で様々な年齢の子ども達が自然に交流できる場を作り、他年齢の存在を意識し刺激を受けながら、他者への思いやりの気持ちを育むと共に、お互いに成長していくことを大切に。	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育 安全、安心を第一とし、職員同士の連携を密にとりながら環境を整え、様々なことに自分で気づき行動できる子どもを育てていく。また、事故防止のため、全体で定期的に安全点検や訓練を行っていく。	食育を推進する教育・保育 野菜の栽培やクッキングなどを通して、食べることの楽しさや大切さを実感できる豊かな食の体験を積み重ね、「食べたい」という意欲を育てていく。	インクルーシブな教育・保育 家庭や専門機関との連携を図りながら、保育者の工夫、配慮によって、園児が共に認め合える関係を作り、安心して周囲の環境と関わりながら発達していけるようにする。
--	--	---	---	---	---

教育課程・育ちの過程

		年齢	0歳児	1歳児	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児	家庭との連携
養護	生命の保持		○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達し、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。 ○体を使ったりいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。 ○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようになる。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。 ○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。	保護者との日々の会話や連絡帳、園の様子を伝える掲示板を通して、家庭とこども園、それぞれの子どもの生活の様子を伝え合い子ども達の望ましい発達を共有する。 小学校への円滑な接続に向けた教育・保育 市内共通アプローチカリキュラムを活用し、小学校と連携し、小学校生活に安心感と期待感が感じられるような学びの接続を図る。 地域との連携を大切に教育・保育 行事への参加や招待を通して地域の人々とふれあい、たくさんの温かい見守りの中で育つことを大切にする。
	情緒の安定								保護者及び地域の子育て家庭への支援 子育てに関する情報交換の場や交流の機会を設ける(月の園庭開放、電話相談)とともに、相談・支援を行うことで、子どもと保護者の育ちを支援する。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ		○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。	健康 ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 人間関係 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 言葉 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そう	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななまじりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。	○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。	○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりし、それが遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	「一人一人が輝くための保育を目指して～職員間の共通理解を深める～」をサブテーマとし、月1回、週指導計画会議の際、子どもの様子や遊びの様子など伝え合いながら、情報を持ち寄り職員間の共通理解を深めていく。
	身近な人と気持ちが通じ合う								研修・研究計画 研究テーマ 生きる力を育む 「一人一人が輝くための保育を目指して～職員間の共通理解を深める～」をサブテーマとし、月1回、週指導計画会議の際、子どもの様子や遊びの様子など伝え合いながら、情報を持ち寄り職員間の共通理解を深めていく。
	身近なものに関わり感が高まる								園の自己評価 評価方法 園内で話し合い 週指導計画会議や話し合いの場では、一人一人の個性やありのままの姿を受け止め、信頼関係や愛着関係を構築しながら、自信や意欲がもてるように関わるよう職員間の共通理解を図る。保護者に向けて各クラスで作成しているポートフォリオや行事後のアンケートで伸び伸びと楽しんでいる姿が見られたという意見をいただいた。園全体で子どもの姿を共通理解を深めることができ、子どもも理解にもつながったのではないかと。

令和5年度

所内研修まとめ

市内保育所 共通テーマ

「生きる力を育む」

第1保育所 サブテーマ

「子どもと共に育つ私たち」
～語り合うことから始まる保育～



東金市立第1保育所

令和5年度 所内研修 市内保育所施設共通テーマ「生きる力を育む」

<子どもの姿>

- ・友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいるが自分の思いを強く通そうとしてトラブルになってしまうことがある。
- ・集まりの際に話を最後まで聞くことができず、集中力に欠けてしまう。



<保育者の願い>

- ・自分の思いを伝えながら、相手の思いにも気付いて欲しい。
- ・クラスの隔てなく、保育所全体で子どもを保育していく環境・関係作り。
- ・年齢や世代も違う保育者集団なので、自分の意見を伝えながら、相手の意見も聞き、色々な考えがあることに気付いていく。

今年度は保育者側の目線に立ち、保育について日々語り合うことで、子どもがどのように変わっていくのか、保育者がどのような学びを得られたのかに焦点をおいて所内研修を進めていく。



サブテーマ「子どもと共に育つ私たち」 ～語り合うことから始まる保育～

<仮説>

- ・一人一人の発達や個性を今まで以上にクラスの職員間で共有することで、子どもが過ごしやすくなるだろう。
- ・会議や研修だけでなく、隙間時間を使って子どもの姿を語り合うことで、職員間のコミュニケーション作りができるようになるだろう。
- ・子どもたちの姿を語り合うことで、より子どもへの理解が深まり、様々な保育が展開されるだろう。
- ・私たち（保育者）が変わることで、子どもも変わっていくだろう。

<手立て>

- ・職員間で短時間でも子どもの姿や日々の保育の振り返りの語り合いを行うことで、自分自身気付かなかった子どもの姿を知るだけでなく、異なった視点からの捉え方があることを知り、自らの保育を省察する機会にしていく。
- ・職員間で子どもの姿や手立てを共通理解しておくことで、子ども自身も迷いなく過ごせるようにしていく。
- ・職員間の連携を図ることで様々な保育が展開される環境を作り、より密な異年齢児との関わりが持てるようにしていく。

☆研究方法

- ・日頃からクラスでの課題点を話し合える環境を作り、自分の意見を伝えたり、相手の意見を認めたりしていく（週案会議や所内研修を情報交換の場にし、職員間で共通理解を図る）
- ・巡回指導での助言を基に、反省点や改善点を話し合ったり、保育を振り返ったりし、課題の見直しをしていく。

第1回目（5月16日）

助言を受けての変化（○）・今後の課題（☆）

1歳児

- ・絵本の数が多く、子どもが取り出しにくいので、表紙を見せるように設置し子どもの目線に合わせて良い。
 - ・子どもの手の届く所に置く。
- 絵本の数を減らし、季節のものや興味がありそうな絵本にし、表紙を見せるように置く。
→今まで以上に自分から手に取り見る姿が見られるようになった。

2歳児

- ・絵本の数が多く、取り出しにくいので、表紙が見えるように置き、数を減らしてみてもどうか。
 - ・着替えの準備は、子どもが行動の理解をしていない内は保育者が行っても良いのではないか。
- 絵本は表紙が見えるように置くことで、絵本コーナーでじっくりと絵本を楽しむ姿が見られるようになった。
○絵本コーナーを広げたり、新たな棚を設置してみようと話し合った。

3歳児

- ・色水遊びではテーブルや椅子などを用意しておく遊びが発展していきやすい。
- 着替えは適切なものがあるかの確認を行っている。
○色水コーナーではすぐにテーブルや椅子を出したことにより、ジュース屋さんごっこに発展し、異年齢児と一緒に楽しめた。

4歳児

- ・ままごとコーナーはこれからどうなっていくのか楽しみ。
 - ・戸外に出る前の着替えを用意しておく狙いは何か。
 - ・雨どい遊びでの子どもの発見を見逃さないように。コーナーに職員がいて遊びの拠点となった方が良い。
- 着替えは自分で用意することで、必要なものがあるかの確認を狙いとしている。6月より出した着替えをゴミで束ねて遊戯室に持って行くようにしている。
○戸外遊びについて幼児全体で話し合い、各クラスでコーナーを設定していくようにした。雨どいコーナーに担当が付くことで必要なものを用意したり、遊びが広がっていくなど変化が見られる。

5歳児

- ・廃材制作のコーナーを広げ、分かりやすい場所にすると遊びがより深まっていくのではないか。また、作ったものを「作品」として捉えるのではなく、作る過程を大切に、作ることが楽しいと思えるような環境作り。
 - ・食育の面では口頭で「食べてみよう」と伝えるだけでなく、色々なものを栽培したりお米とぎをしったりする経験も食べる意欲につながると思う。
- 廃材コーナーの見直しや環境を工夫したことで、好きな物をじっくりと作りこむ楽しさを味わうことができた。
お店屋さんごっこや段ボールを使ったカブトムシ作りなど遊びが発展し、やり取りも楽しんでいる。



第2回目（11月2日）

1歳児

- ・絵本の置き方が改善されていて、子どもが手に取ってよく見るようになっていた。
- ☆一対一で膝に乗せて絵本を読むことを心がけていきたい。
・各コーナーに保育者が一人ずつ付いていたので遊びが充実しているのが分かった。

2歳児

- ・各コーナーに保育者がいるのは良い。
 - ・活動の中でどうしても待たせてしまうことが多くなってしまった。
- 待たせてしまっても、戸外などの活動や遊びで発散できていれば良い。

3歳児

- ・戸外での遊びの様子しか見ることができなかった。室内では子どもが落ち着いて遊びを楽しめるようにする。
 - ・戸外遊びは子どもが群れて遊んでいない。
- 室内同様にコーナーを設定してみてもどうか？
・ハサミを出したいとのことであったが、子どもの年齢だけにとらわれず、子どもの姿に合わせて設定をする。

4歳児

- ・光の箱をテラスに出してコーナーが広がったのは良かったが、室内のコーナーはまだまだ見直しが必要なので、職員間で話し合い、進めていきたい。
- 戸外遊びも室内と同じようにコーナーがある方が良いと助言を受けたので、クラス内から幼児全体で話し合いそれぞれコーナーを設定し職員が付くようにした。

5歳児

- ・子どもは大人の世界に憧れて遊びを展開していく。保育者がモデルとなりながら遊びを展開したい。
- ・2年前の年長児のしていたことを覚えていた。ロッカーの前にお化け屋敷をそのままにしておいたが、子どもなりに考えて行動する姿が見られた。

○所内研修の経過

〈年5回の所内研修を実施〉

回	実施日	内容
1	4月28日(金) 5月 2日(火)	〈サブテーマ決め〉 昨年度の反省を踏まえつつ、今年度の各クラスの子どもの様子を共有し、研修のテーマ決めを行う。
2	5月16日(火)	第1回伊藤先生巡回指導
3	5月22日(月)～	〈課題検討〉 第1回伊藤先生の巡回指導を受けてクラス内で反省、課題の検討を行う。
4	9月1日(金) 9月7日(木)	〈意見交換〉 各クラス課題を出し合い、その中で一つのテーマについて意見交換をしていく。
5	11月2日(木)	第2回伊藤先生巡回指導
6	11月6日(月)～	〈課題検討〉 第2回伊藤先生の巡回指導を受けてクラス内で反省、課題の検討を行う。
7	12月13日(水) 12月19日(火)	〈意見交換〉 二つのテーマに沿って意見交換をしていく。
8	2月19日(月)	所内研修のまとめ作成 所内研修まとめ完成・提出
9	3月8日(金)	所内研修・園内研修発表

○園内研修の成果と課題

	成果	課題
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児さんに「テントやバーベキュー」遊びに誘われ参加した後に子どもたちから「やりたい」という声上がり、室内にバーベキューセットを用意すると真似をしながら遊びが広がっていった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 異年齢クラスと関われる場面や環境を保育者が積極的に作り、無理のない交流の機会を作っていきたい。
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> • 子どものちょっとした変化や興味や関心のあることなどを今まで以上にすぐに日々の保育や環境に取り入れられるよう汲み取ることに繋がっていった。 • 保護者との語り合いでは、互いに家庭、保育所での子どもの姿を伝え合い、よりよい関わりの方へ進んでいくことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度で閉所となることを踏まえ、進級だけでなく、新しい環境の中に入っていくことになる子どもや保護者に対してそれぞれ語り合いを深めていくことで、安心につながっていききたいと思う。 • 乳児から幼児という大きな変化が予想されるので、保育者同士での語り合いも引き続きしっかりと行っていききたい。
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> • 職員間の語り合いの大切さを感じながら保育を行うことができた。 • 他クラスの職員とも話を重ねることにより、戸外ではコーナー設定をしっかり行うことができ、異年齢での交流も持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 年齢や経験年数も違う職員同士での話し合いが上手いかずに、保育もスムーズに進まないことがあった。 • 年齢の発達を重視するのではなく、今の子どもの姿をきちんと捉えたうえで、保育環境を整えていく必要があった。今後も子どもの姿を重視してハサミや箸の使用を検討していききたい。
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> • 職員が語り合いを意識しながら保育を行うことができた。些細なことでも共有するようになった。 • クラスのことは職員だけでなく、子どもたちとも話し合うことで、みんなで一緒に考えられるようになってきた。 • 遊びを通じて、2歳児と関わることもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 集団遊びを楽しめるようになり、積極的に行動する子もいるが、そこには入らず戸外でフラフラしている子もいる。遊びが充実できるよう、職員間での話し合いをもっと重ねる必要を感じ、対応を考えられるようにしていきたいと思う。
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> • 自分のクラスの保育を他のクラスの職員にも見ていただくことで、色々な視点で子どもを見つめることができた。 • 他愛もない話をする中で新しい考え方や手立てに気付くことができた。 • 子どもとのコミュニケーションも密に取ることで、やりたいこと、挑戦したいことをすぐに実現できるようにした。 • 年下の子どもたちにとっての良い見本になれるよう、積極的に異年齢交流の機会を作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの中で挑戦したい事の数が多く、実現しきれなかった部分もある。積極的に他のクラスの職員にも声をかけて、子ども主体の保育をより大切にできれば良かった。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上 	<p>子どもの最善の利益を考え“子ども主体の保育”が展開できるよう、日々の職員の語り合いを大切に、共通理解のもと実践に取り組んだ。子どもが「やってみたい」と思うことを実現するために私たち保育者は、どのように子どもと関わっていったらよいか考え、健やかな成長を促していくために一人一人の子どもを見つめ適切な関わりができるよう取り組んできた。</p>
--	--

【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> ●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別支援計画 	<p>幼保共通カリキュラムを活用し、幼児は年間の具体的な実践計画を作成し、発達に応じた保育の展開を心掛けた。保育者同士の語り合いが保育にどう影響するのか検証することで、よりよい環境作りにつながり子どもの生き生きとした表情を引き出す保育に取り組むことができた。</p> <p>また、配慮が必要な子どもの個別支援計画を立案することで、職員同士が共通理解を深めることができ、保護者対応にも生かすことができた。</p>
---	---

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流 	<p>入所している家庭の保護者に対しては、ドキュメンテーションを作成し視覚的な方法で伝えたり、対話を積極的にもつようにしたりしたことで保育の理解を得ることができた。地域に対しては、コロナ禍以降に積極的な関わりをもつことができず交流の機会がほとんどないまま過ぎてしまった。また、地域の保護者に対する子育て支援においては電話相談の日を設けたが、利用はなかった。</p>
--	--

○まとめ

今年度は『子どもと共に育つ私たち～語り合うことから始まる保育～』というテーマで所内研修を進めていった。子どもの姿を見つめ、クラスの実態から課題を設定し、所内研修を進めることができた。また、週案会議などで子どもの様子や遊びなどを話し合い情報を共有することで、目的が明確になったり、悩んでしまったときにはアドバイスをもらえたりして改善することができ、異年齢で関わりを持つ機会を作り出すことができやすかった。

経験年数も年齢も違う職員集団なので、語り合いを進めていく中で意識したことは、意見を気軽に言い合える雰囲気作りと環境作りを心掛けて所内研修を進めていくことであった。意見交換をしていく中でいろいろな考えがあることを知り、自分の保育を見つめ直したり、職員間で共通理解を深めたりする良い機会となり、課題を達成するとともに子どももより過ごしやすい環境を作り出すことができた。

保育を進めていくうえで、年齢の発達に捉われてしまうことがあり、保育がスムーズに進まないクラスがあった。担任同士の十分な語り合いが不足していたことが保育の展開に大きく影響することを実感する場面でもあった。子どもの姿を十分捉え、共通認識を深めたうえで用具や教材を提供していくことの大切さを感じた。また、遊び込めずにフラフラしてしまう子どももいたので、職員間でさらに話し合いを進めて子どもの興味を広げていけるような環境構成が必要であったと反省する。

今年度で第1保育所は閉所となってしまうが、職員一人一人が今回の研修で学び得た知識や保育観を次年度は他施設でも発揮し、質の高い保育を目指せる職員集団を作れるようにしていきたい。

所内研修まとめ

市立保育所・認定こども園共通テーマ
「生きる力を育む」

第2保育所 サブテーマ

〈個性に寄り添う保育〉
～多角度から援助を探る～



東金市立第2保育所

市内保育所・こども園共通テーマ
「生きる力を育む」

【子どもの姿】

- 0・1 歳児…新しい環境に慣れてきて泣いている時間が少なくなり、保育者や友達に目を向け関わりを楽しめるようになってきた。
- 2 歳児 …個人差はあるが個々に合わせて関わっていくことで自分からやろうとする姿や小さい子に優しくする姿が出てきた。
- 3 歳児 …新しい環境に慣れず、落ち着かない様子が見られる。遊び方がわからなかったり遊びが見つけれなかったりし、個々への対応が難しい。
- 4 歳児 …進級を喜び、友達と協力し意欲的に行動する子がいる反面、周りが見れず好き勝手な行動をしてしまう子もいる。
- 5 歳児 …年長児となり頑張る姿もあるが、逆に落ち着かずやらなければいけないことをやらない子もいた。自分のやりたいことだけを主張する姿も多く個々への声かけが必要。



【保育者の願い】

- 0・1 歳児…自分のやりたい遊びを見つけて、夢中で遊べるようになってほしい。
- 2 歳児 …安心して過ごし友達や保育者とやりたい遊びを十分に楽しめるようになってほしい。
- 3 歳児 …友達や保育者とのやり取りを楽しみ、何事にも意欲をもって取り組めるようになってほしい。
- 4 歳児 …友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わえるようになってほしい。
- 5 歳児 …自己を発揮し、目標に向かって皆で協力し合いながら活動できるようになってほしい。



サブテーマ 「個性に寄り添う保育」
～多角度から援助を探る～

【仮説】

- 一人一人のありのままの姿を受け止め、気持ちに寄り添うことで、保育者が心のよりどころとなり安心して過ごせる場となるのではないだろうか。
- 園全体で子どもの姿や対応の仕方を共通理解していくことで自己肯定感が高まり、周り（友達の姿など）に目を向けられるようになり、様々なことへの意欲へと繋がっていくのではないか。

【研究の手立て】

- 職員間の話し合いの中で、様々な角度から一人一人の子どもの姿や思いを見つめ、関わり方を探っていく。
- 園全体で気持ちに寄り添った保育をしていく中で、小さな“できた”（成功体験）を積み重ね、自信や「やってみよう」という意欲へと繋げていく。
- 子どもの顔写真入りのマグネットを使い、その子の良いところ、成長したところ（関わり方での成功例）など気付いた職員が付箋で貼っていく。職員室にボードを設置し、成長を共有していく。

【研究方法】

- 少人数のグループに分かれ、所内研修を行ない、意見交換をする。
- 子どもたち一人一人の良いところ、成長したところをボードに出し、職員間で共有していく。

《所内研修の経過》

回	実施日	内容
1	4月25日(火)	テーマ決め ・各クラスの子どもの実態を話し合い、今年度のサブテーマを決定する。
2	5月30日(火)	第1回巡回指導(伊藤准教授) ・指導を受け、保育の振り返り、各クラスの良かった点、改善点を確認、共通理解、共有する。
3	7月11日(火) 7月12日(水) 7月14日(金)	第1回所内研修<研修資料> ・第1回伊藤先生巡回時の助言を含め、サブテーマに沿った保育の一場面の写真を各クラス持ち寄り、意見交換をする。
4	11月9日(木)	第2回巡回指導(伊藤准教授) ・指導を受け、保育の振り返り、各クラスの良かった点、改善点を話し合い共通理解していく。
5	11月10日(金) 11月14日(火) 11月16日(木)	第2回所内研修<研修資料> ・サブテーマに沿った保育の一場面の写真を各クラス持ち寄り、ポストイットを用いて、意見交換をする。
6	12月22日(金) 12月25日(月) 12月26日(火)	第3回所内研修<研修資料> ・サブテーマに沿った保育の一場面の写真を各クラス持ち寄り、ポストイットを用いて、意見交換をする。
7	1月19日(金)	研修まとめ話し合い ・一年間の保育を振り返り、各年齢の成果と課題を出し合い、園全体の成果と課題について話し合う。
8	3月8日(金)	所内研修発表

子どもたち一人一人の良いところ、成長したところをボードに出していき、職員間で共有。



子どもの良いところに目を向けようという意識に繋がった。



《伊藤先生の巡回指導を受けて》

◎1回目 (5月)

〈幼児〉

- ・保育室のコーナーは、3つ以上あった方が良いといわれているが、各クラスできていた。
- ・観察コーナーが各クラスにあるが、年齢により意図しているものが違うので、環境設定が違っているのは良い。
- ・園庭にもコーナーがあり、1人以上保育者がついているのが良い。
- ・戸外遊び時、1人でフラフラしている子の対応を考える必要がある。
- ・園庭会議を行ない、皆で全体のことを考えていくのが良い。
- ・クラスを行き来しても良い。
- ・戸外に制作コーナーがあっても良い。
- ・子どもの様子をよく観察していくことで飽きずに遊べる。

〈乳児〉

- ・絵本は、子どもが手に取って見やすいようにしておく。
- ・絵本は、親子で読み聞かせするように作られている。(大勢で見るとは作られていない)
- ・天井が高い分、布や飾りを吊すことで、子どもが低さを感じ落ち着ける環境になっていて良かった。天井の布や飾りを見上げる動作が、自然と運動に繋がるので良い。
- ・人も環境の一部と感じた。(外部の人が見学の為に入室した時、子どもの遊びが止まってしまっていた)
- ・絵本の表紙を見て、子どもが自ら選べる本棚は良い。



◎2回目 (11月)

〈幼児〉

- ・戸外のコーナーが充実していて良かった。
 - ・遊べない子は、固定遊具に行きがち。
- 〈手のかかる子への対応〉
- ・その子に注目して見ていくことが大事。
 - ・子ども自身が困っているのか、保育者が困っているのか？によって違う。
 - ・子どもだけを見るのではなく活動で見ていくのもポイント。

〈乳児〉

- ・大人を拠点に子どもたちがよく遊んでいた。
- ・体を動かす遊びのコーナーにブロックなどが混ざらないようにすると良い。遊びと遊びが混ざると、今まで楽しんでいた遊びをしなくなってしまう。
- ・大人の数のコーナーがベスト。
- ・ままごとコーナーは、全学年にあるのが良い。ごっこ遊びが自然に生まれる。
- ・ままごとと魚釣りの間にBBQセットがあることで、遊びが混ざり合っていて良い。遊びと遊びが混ざり発展することもある。
- ・大人が先取りしすぎてしまうと、その遊びが消えてしまう。保育者がいくら準備しても見たことのないものは遊びにつながらない。
- ・フェルトをお金に見立てて遊び、子ども同士でそれがお金と共有できていればOK。子どもが他のものをお金にしたいという声があった時変えていく。
- ・画材の検討クレヨン(描きやすいもの)を使用してほしい。

<成果と課題>

	成 果	課 題
0・1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活や遊びの中で、体を動かしたり、指先遊びを取り入れたりし、子どもの様子や発達に合わせて環境を整えてきた。子どものやりたい思いを見逃さず、やりたいと思ったときには行えるように、見守り楽しめるようにしてきたことで、自分の思いを伝えられるようになっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、一人一人の気持ちに寄り添いながら丁寧に関わることで、安心して過ごせるよう、保育者が仲立ちとなり気持ちをくみ取りながら見守り、個々に合わせた援助を行っていききたい。
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> やりたくないことも認め、見ている姿も見守っていった。「やりたくない」という気持ちを受け止め、保育者が気持ちに寄り添い、参加の仕方や環境構成を工夫してきたことで、興味をもち「やってみよう」という気持ちになり挑戦したり取り組んだりするようになってきた。 「やってみたい」「もっとしたい」という気持ちに寄り添い、安全面に配慮したり、職員間で話し合いの場をもち、子どもの姿を共通理解し連携を図ったりしたことで、子どもたちがやりたいことを十分に楽しむことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「やってみよう」という気持ちを引き出し、行動を起こすきっかけを作ることが大切だが、一人一人に合った働きかけの難しさを感じた。 一人一人の気持ちに寄り添い、やりたいことができるように時間や場、職員の確保が難しいと感じることがあった。 室内外で幼児と関わる機会を多くもつようにしたことで、様々なことへ興味をもち挑戦しようとする姿が見られたが、個人差が大きかった。ゆっくり一人一人のペースで様々なことに挑戦できるよう今後も個性に寄り添い保育していききたい。
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> 担任同士で話し合う機会を多くもつことで共通理解をしながら保育を進めていくことができた。 「やってみたい」の気持ちを大切に、遊びを見て環境を整え、見守ったり保育者も一緒に関わったりすることで、試したり調べたりしながら継続して遊ぶ姿が出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちの切り替えに時間が掛かったり、なかなか次の行動へと移れなかったりする姿が目立っていた。身の回りのことも含めて生活の流れを丁寧に知らせ、自分から行動へと移れるように援助をしていきたい。
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で友達と関わる機会をもつようにしていったことで、より多くの友達との関わりがもてるようになってきた。 いろいろなことに挑戦できるよう環境を作ってきたことで、いろいろなことに「やってみよう」という意欲が出てきた。 信頼関係を築いてきたことで、自己主張ができるようになり、安心して過ごせるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を丁寧にみるためには保育者が足りない。 個性に寄り添いながらその子の思いを他児に知らせ、周りの子を巻き込んで遊びを盛り上げていくことが大切。
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に目を向けることを意識したことで子どもの内面の思いに気付くことができた。 子どもの思いに寄り添い思いを実現することが結果的に友達との関わりを深めることに繋がり、生き生きとした表情に変わったり自信をもって生活したりできるようになった。 保護者との対話から子どもの本当の思いを知ることができ、普段からコミュニケーションを図ることの大切さを実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個性に寄り添う中で、担任だけではなく園全体で見守っていく必要があり、子どものことを語り合える職員間の関係作りが必要である。 気持ちに寄り添えたと思っても、良い状況が続かないこともあり、一人の子を継続して見守り関わっていく必要がある。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上 	<p>子どものありのままの姿を受け入れると同時に、一人一人のよさに目を向けることを意識しながら保育に取り組んだ。その結果、職員が全園児に関心をもち、寄り添う保育へと繋がった。外部講師のアドバイスを参考に所内研修を重ね、子どもたちの興味関心を探り、遊びの環境設定を行った。また、研修を受けた職員が中心となり、「子どもの人権に配慮した保育」について語り合う場を設けたことは、職員同士が互いの思いを知り、理解を深めることができ資質向上に繋がった。今後も継続していくことで、より良い保育の展開が期待できる。</p>
--	---

【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> ●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 	<p>市内共通カリキュラムを基に、全体的な計画、月指導計画（乳児）、週指導計画を作成し、実践、振り返りをした。週案会議でクラスの様子を伝え合い、職員が共通理解し保育を展開したことで、自然な形で異年齢との関わりが増え、遊びの中からの学びに繋がった。また、保育の中で疑問に思ったことなどを語り合うことで、様々な考えがあることに気付き、共通理解し保育を進めることが出来るようになってきた。</p>
--	---

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流 	<p>送迎時に保護者と子どもの日々の様子を伝え合い、コミュニケーションをとることを心掛けた。また、ドキュメンテーションの掲示や保育所だよりの中で、保育所での子どもの様子を保護者へ発信し、子どもたちの成長を共有した。子育て電話相談の実施を広報、ホームページに掲載したが相談はなかった。地域の小中学校の職場体験等の受入れや小学生と年長児の交流会が再開し、地域との繋がりがもてた。</p>
--	---

<まとめ>

昨年度、子どもたちの興味関心を探り環境を整えることで、子どもたちのじっくり遊びこむ姿が見られるようになっていた。だが、今年度どことなく落ち着かず、個々への対応の難しさに直面するスタートとなった。そこで今年度は、多種多様な個性をもった子どもたち一人一人の思いに寄り添い、保育していく中で、自信や「やってみよう」という意欲へと繋げていくことを目指し、「個性に寄り添う保育～多角度から援助を探る～」というサブテーマを設定した。

このサブテーマの具体的な手立てとしては、まず、エピソードの写真を持ち寄り、職員間で子どもの姿や対応の仕方について共有し意見交換を行った。始めた頃は、どのような姿勢や思考で臨めばよいのか戸惑うこともあったが、「子どもの個性に着目し、その個性に寄り添うこと」を強く意識することで、子どもの目線に立った援助をすることに繋がり、子どもたちの生き生きする姿が見られるようになった。

無理矢理やらせるのではなく、その子の興味のあることは何かを探り、好きなことを遊びに取り入れ、その子の気持ちに寄り添うことを繰り返した。遊びを行事に取り入れたことで、無理なく参加でき、自信へと繋がった。また、巡回指導で助言を受け、「遊べていない子に目を向ける」ことができたことも学びになった。どの年齢でも子どものやりたい思いを叶えることで、その子の意欲を高め、友達関係が広がることを実感した。

職員間の情報共有においては、ホワイトボードを使用したことで、子どもの良い所や成長した面を見える化することができ、職員間の共通認識や連携に繋がった。クラスだけの問題にせず情報を共有することで、保育の幅や視野が広がり、子どもにとってより良い対応の仕方を探ることができたのではないかと感じる。所内全体で子どもを見守り、同じ対応をするためにも職員の対話がとても重要であり、連携を図ることが質の高い保育に繋がることを改めて感じた。

今回の所内研修を通して、保育者が子どもにとって心のよりどころとなり、保育所が安心して過ごせる場となること、また、ありのままの子ども姿を受け止め寄り添うことが大切なことを共通認識できた。今後も職員間の連携を密にし、継続して子どもに寄り添った保育を行えるよう取り組んでいきたい。

令和5年度
所内研修まとめ

市立保育所・認定こども園共通テーマ

「生きる力を育む」

第3保育所サブテーマ

「子どもの心の育ちを考える

～ 人との関わりの中で ～」



東金市立第3保育所

テーマ「生きる力を育む」

昨年の反省・課題

- ・援助が必要な場面と見守る場面の子どもの距離感や加減を考えると、また、個々の育ちにより丁寧に目を向けていくことが大切である。

<子どもの姿>

- ・友達との関わりやつながりが希薄で、自己中心的な面が目立つ。
- ・友達とのトラブルを、自分達で解決できない。
- ・自己アピールはできるが、周囲の人の話に耳を傾けることが難しい。
- ・友達の悪い部分に目が行くことが多い。
- ・活動の中で、待つこと・我慢することが難しい。



<保育者の願い>

- ・自分の気持ちだけでなく、友達の気持ちにも気づけるようになってほしい。
- ・友達との関わりの中で、相手を思いやる気持ちを育ててほしい。
- ・保育者頼りでなく、自分で考え、行動に移せるようになってほしい。
- ・周囲の人の話に耳を傾けられるようになってほしい。
- ・時には、自分の気持ちに折り合いをつけ、道徳性や規範意識が育ててほしい。

サブテーマ

子どもの心の育ちを考える ～ 人との関わりの中で ～

<仮説>

- ・まず1対1で話す時間を設けることで、話を聞こうとする意識がもてるようになるのではないか？
- ・活動の中で、保育者や友達との意見のやりとりが出来る機会を多くもつようにすることで、友達との繋がりが芽生え、思いに気づけるようになるのではないか？
- ・トラブルや困った際に、じっくりと向き合う時間を大切にすることで、自分で考えたり、気づいたりできるようになっていくのではないか？



<手立て>

- ・活動にメリハリをつけることで、話を聞く時間・遊ぶ時間など気持ちを切り替えられるようにする。
- ・日々の保育の中で、子どもたち同士で思いを伝え合ったり、一緒に考えたりする時間を設け、子どもたち自身が気づき、自分の言動を考えられるようにする。
- ・子どもとの距離感を考え関わる中で、子ども自身の行動を認め、自信に繋がられるようにする。

<研究方法>

- ・職員間で話し合いの機会をもち、実際にあったエピソードについて、写真や事例をもとに意見交換や共通理解を図り、その場面での関わり方を考える。
- ・巡回指導での助言を受け、反省・改善点を話し合い、見直していく。

<<所内研修の経過>>

回	実施日	内容
1	4月11日(火)	昨年度の所内研修を経て、現在の子どもの姿を共有 保育者の願いについての話し合い サブテーマの決定
2	4月19日(水)	仮説・手立て・研究方法についての話し合い
3	7月3日(月) 4日(火)	第1回 各クラスのエピソード記述についての情報共有と意見交換 (4～6月頃の子どもの姿)
4	7月12日(水)	石井先生巡回指導
5	10月13日(金) 16日(月)	第2回 気になる場面についての意見交換 (異年齢交流時の写真をもとに意見交換を行う)
6	11月24日(金)	石井先生巡回指導
7	1月15日(月) 16日(火)	第3回 各クラスのエピソード記述についての情報共有と意見交換 (10～12月頃の子どもの姿)
8	2月2日(金)	1年間の反省・成果・課題について話し合う
9	3月8日(金)	所内研修まとめ発表

<<石井先生巡回指導>>

第1回 (7月12日)

<0・1歳児>

- ・子どもたちの遊びの楽しみ方を保育者が把握しておくが良い。
- ・水分補給などは、子どもたちが飲みたいと思えるよう、遊びの中で飲む個別の対応でも良い。
- ・おむつ替えや着替えは、保育者の声掛けの中で子どもが心地よく感じられるよう丁寧にに関わり、気持ちを表す言葉を伝えていく。ゆったりとした関わりが大事である。

<2歳児>

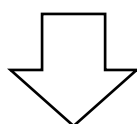
- ・手遊びは一緒にやる子、見ている子がいて良い。
- ・絵本コーナーが癒しのスペースになっていて良い。
- ・保育者が楽しいことをしていると子どもが寄ってくる。今後1歳児との関わる機会があっても良い。

<乳児>

- ・少人数でのびのびと過ごしており、環境作りが良い。
- ・子どもたちが普段体験している場を再現し、ごっこ遊びに取り入れていくと良い。
- ・家庭で何をしているかを保育者が把握しておくことで、子どもたちの興味もある遊びを提案できる。

<幼児>

- ・コロナ禍で制限があった子どもたちは、言語・運動の経験が足りない。これから経験が必要なことは何かを考えていくことが大切である。
- ・熱中症警戒アラートが出ている日など、テラスのように半分日陰で遊ぶ環境を活用していることが良い。
- ・保育者が子どもの遊びの様子を事前に把握し、遊びが続くよう準備して良い。
- ・子どもたちの遊びの中の作品は写真に残しておく。
- ・3・4・5歳児の遊びが共有出来たら良い。
- ・子ども発信の面白みのある遊びが発展していくと良い。
- ・経験を広げていく際に、行った場所など興味のあることを広げていくアプローチができるか。
- ・困ったときに大人に頼りがちなため、子どもたちが自分で自己選択をし、考えられるようにしていく。
- ・みんなと一緒に行動する中で活動に遅れがちな子に対して、他の子が嫌なイメージをもたないようにするために、その子を待つ時間を減らす等の個別な関わりを考えていくことが大切である。



助言を受けての変化・今後の課題

(○)

(☆)

第2回 (11月24日)

<乳児>

○異年齢の関わりが日常的に増えているのは良い。じっと見ている姿、真似る姿、全てが学びになると思う。
○子どもたちの学びは、ドキュメンテーションにて掲示し、保護者に共有することで、子どもの学びを知らせて良い。

☆見立てられる素材(フェルトや毛糸等)を用意し、イメージをもって遊びが広がっていったら良い。

☆1歳児も生活面や遊びの中で、自分で選ぶ経験を保育者が待つことも大切。イヤイヤ期も成長過程の中で大切なため、保護者の方に保育者はどういう思いで対応しているかを伝えていくことが大切。

☆異年齢との関わりの中で、年明け前にもどんどん遊びや生活を少しずつ移行に向け取り組んでいったら良い。

<幼児>

○異年齢との関わりの中で、氷の作り方を3歳児が自分で年長児に聞いて最後までやり遂げようとしている姿が良い。

○廃材制作の中で、作った作品で自分流のルールを作り、遊び方を工夫して作り上げられていて良い。

○園庭に四角のマスが描かれており、子どもたちがいろいろな遊び方を発想でき、集団で遊ぶきっかけとなっている。また、子どもたち自身で遊びを進められている。

☆遊びが途切れずに活動を行っていくにはどうしたらよいか、工夫していくことが大切である。

<<成果と課題>>

	成果	課題
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢児と関わることで、年下の子に優しく接する姿が出てきた。 トラブルの際は、できる限り見守っていくことで、互いにぶつかり合いながらも自分たちで解決していく姿が増えてきた。 保育者に気持ちを受け止めてもらう中で、自己を発揮できるようになってきた。 個々の姿に注目し、発達に応じた援助を行う中で、子ども同士で思いを伝え合えるようになり、友達にも寄り添う姿が見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が子どもに寄り添うことの大切さを改めて感じ、子どもの姿をじっくりと見て関わりを考えていきたい。 個々の成長はあるものの、注意や指摘の声が多く聞かれるため、言い方についてその都度知らせていく必要がある。また、保育者自身が見本となるため、保育者自身も気を付けていきたい。
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> トラブルの際に保育者に頼ることが多かったが、子どもたち同士で解決に向かえるよう見守り、必要な言葉を知らせていくことで、子どもたち同士で少しずつ友達の気持ちに耳を傾けるようになった。 異年齢児との交流の機会が増え、乳児組の面倒をみようとして、優しく声を掛け自分から関わりをもとうとする子が増えてきた。面倒を見る中で自分の自信にも繋がってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 同年齢の友達に対する思いやりをより育てるよう、ルールのある遊びや、協力してやり遂げる場面、発表し合う機会を作るなど友達の思いに気づける機会を増やしていきたい。 子どもたち自身が考える時間を大切に、自分の行動に自信がもてるようにしていきたい。
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢と交流できる時間をカードにして掲示したことで、好きな場所で遊べるようになった。 子どもたちが自ら必要なものを作って遊びを進められるようになってきた。 異年齢の遊びを楽しんだことで、「やってみたい」と思い、遊びを取り入れ広げていくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内、戸外遊びともに、異年齢児と自然に関わりながら、遊べる機会をもっていけるよう保育者間で活動の見通しをもって進めていく。 生活や遊びの中で、異年齢児との関わりを広げていきながら、心の成長が育まれるようにしていきたい。 子どもの「やりたい」を見極め、子どもたちが満足して遊び込めるような環境作りをしていく。
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育の中で、自分で考えてみる機会を作るような声かけを心掛けたところ、見通しをもち、自分で考えて行動できることが多くなった。 子ども同士のやりとりが多く見られるようになり、子ども自身が相手の気持ちに気づき、思いやりや譲り合いの姿が見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達とうまくかかわることが出来ない子には、保育者が仲立ちとなったり、集団遊びを通して、一緒に遊んだりすることで楽しい経験を重ねながら、自然に仲間に入れていきたい。 人の嫌がることが理解できず、続けてしまう子がいるので、相手の気持ちに気づけるよう丁寧に知らせていき、関わり方を知らせていきたい。
0・1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が心の育ちや人との関わりについて、考えて保育を行うことで、一人一人により向き合っていることが出来た。 好きな遊びを楽しめる環境を設定したことで、自分の思いを出して過ごすことができた。 保育者が見本となり関わるようにしたことで、異年齢児との遊びの中でも少しずつ伸び伸びと遊べるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢との関わりや同じ場所で遊ぶ経験を増やしていきたい。 異年齢との遊びをクラスで活かしていくにはどうしたらよいか、また、落ち着かない子がいる中で、ゆったりとじっくりと遊ぶにはどうしていくか工夫していきたい。
全体	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が個々に寄り添い、子どもの気持ちを受け止めたり、自分の意見を言える環境作りを行ったりしたことで、自分を表現できるようになり、遊びも広がっていった。 「遊びに来ていいよ」のマークを掲示し、子どもたちが選択して、自然と交流できる機会が増えたことで、異年齢児に対する思いやりの気持ちが育まれてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 色々な場面に応じて、友達との関わり方を子どもたち自身が気づき、考え、解決していけるように、保育者が日々の関わりを工夫し、見守っていくようにする。 異年齢との交流を引き続き行い、互いに刺激を受けながら、友達を認め合う中で「心の育ち」を大切に、自信に繋がっていききたい。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上 	<p>子ども達の現状を踏まえ、一人一人の人格を尊重し、様々な方法で気持ちを表す子どもに寄り添い仲立ちするなどし、個別に配慮が必要とする子どもについて職員間で共通理解し、適切な援助を行うようにした。健康及び安全の管理については、消毒等の感染症対策の徹底、個別カード・連絡帳による健康観察を継続して行った。毎月保険だよりを配付し、保護者への注意喚起等を促した。所内研修を通して保育を振り返り、他の保育者の取り組みに刺激を受けたことで工夫し、実践することができた。</p>
--	---

【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> ●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別支援計画 	<p>共通カリキュラムを活用し、自園の子どもの姿を捉え計画をした。所内研修のテーマを基に、週案会議などでより細かく職員間で共通理解し連携を図った。異年齢交流においては、戸外だけでなく室内に目を向け、遊びや生活の場面での関わりが深まった。</p>
---	--

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流 	<p>昇降口や乳児組クラス前にドキュメンテーションを掲示し、保育所内での子どもたちの過ごす様子や保育内容を保護者に発信した。新型コロナウイルスが5類感染症に移行したものの、地域における交流事業はできなかったが、地区のコミュニティーセンターの掲示板を活用し、保育所の様子を発信していった。</p>
--	---

<<まとめ>>

子どもの心の育ちに注目することで、保育者自身がより一人一人の心の成長に目を向け、子どもたちとの関わり方を考えながら保育にあたることができた。また、保育者が子どもの気持ちを受容することで自信がつき、自分を表現する楽しさを感じられるようになってきている。遊びや生活の中で、自然と子どもたち主体の活動に繋がっていったのではないかと思う。

また、異年齢交流の方法について保育者間で話し合い、交流の機会を戸外だけでなく、室内でも頻繁に行えるようマークを掲示する等の工夫をしていったことで、遊びの場が広がり、子どもたちが選択しながら、異年齢交流を図ることができた。年下の友達を思いやる気持ちも異年齢児との交流の中で育まれていったように思う。

しかし、時々同年齢の友達に対して、強い言動になってしまうことがあるため、子どもたち自身が友達との良い関係を築いていけるよう、保育者が丁寧な関わりを行い、子どもたちの手本となれるよう今後も意識していきたい。

今回の所内研修を通して、日々の保育を振り返り、反省・共有・改善することで子どもたちの変化・成長が見られた。引き続き子どもの心の育ちに目を向け、保育者間で共通理解を深め、個々の成長に寄り添った保育を意識して取り組んでいきたい。

令和5年度 園内研修まとめ

市内保育所共通テーマ
「生きる力を育む」

豊成こども園サブテーマ
「異年齢交流～友だちとの関わりの中に見える子ども達の姿～」



豊成こども園

市内保育所・こども園共通テーマ
『生きる力を育む』

☆昨年度からの課題点

◎経験させたいことは共有できていたが、どこまで行こうかが共有できていなかった。また、同じ遊びでも経験の差や年齢によって目標やねらいの違いがあるが、遊びの進め方で曖昧な部分があった。

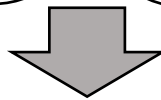
→年齢によつての目標やねらいを明確にして、保育者の援助や環境作りについて考え、異年齢交流を更に深めていきたい。

＜子どもの姿＞

- ・積極的に友達と関わって遊ぼうとする姿が見られるが、物の取り合いなどのトラブルもある。
- ・新入園児の人数が多く、不安から泣いてしまう姿や在園児が圧倒されてしまい、遊びだすことが難しい。
- ・兄弟、姉妹がいる子は、戸外に出ると自然と異年齢交流が生まれていて、関わりを楽しんでいる。

＜保育者の願い＞

- ・遊びが単発になっているので1つのことを継続的に遊びこめるようになってほしい。
- ・兄弟、姉妹以外の異年齢の子ども達とも一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしい。
- ・異年齢の子と関わる中で、小さい子に優しくしたり上の子に憧れたりする経験をしてほしい。
- ・子ども同士で遊ぶ中で、年上の子が年下の子に対して、ルールや約束事を教えられるようになってほしい。



R5年度 豊成こども園のサブテーマ

『異年齢交流～友だちとの関わりの中に見える子ども達の姿～』

【仮説】

- ・経験や年齢の差に考慮したねらいを設け、遊びの進め方を共有していくことで、異年齢交流が深まるだろう。
- ・保育者がモデルとなり、子ども達に関わり方を知らせていくことで、子ども達だけでも遊びを進められるようになるだろう。

【手立て】

- ・子ども達が興味をもっている遊びを把握し、各年齢の遊びを共有して、どんな異年齢交流ができるかを職員間で細かく話し合い、取り入れていく。
- ・子どもの主体性を大切に、子ども達からの意見をもとにして、時には保育者が遊びを提案しモデルとなり、年間を通して継続して遊びを進めていく。そして経験を積み重ね、子ども達だけで楽しめるようにしていく。

【研究方法】

- ・学年間の違いが分かるように共通のテーマを話し合いで決めて、そのテーマをもとに年齢ごとにドキュメンテーションを作成し、付箋に気付いたことや感じたことを記入して、意見交換をする。
- ・巡回指導での助言を受け、反省点や改善点を話し合ったり、保育を振り返ったりし、課題の見直しをする。

○園内研修の経過

回	実施日	内容	
1	4月21日(金)	クラスの実態についての話し合い サブテーマ決定	<ul style="list-style-type: none"> • 年度当初のクラスの実態や昨年度の園内研修の良かった点、課題点を踏まえて、今年度の園内研修の方向性を考えていく。 • 保育者の願いや仮説、手立てについて話し合う機会を作り、園内研究計画を作成した。
2	5月11日(木)	保育者の願い・仮説・手立てについて	
3	5月12日(金)	園内研究計画完成・提出	
4	6月12日(月)	第1回伊藤先生巡回指導	
5	8月17日(木)	研究方法について	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年度の園内研修の方法を振り返り、今年度は普段から作成しているドキュメンテーションを活用した方法に決定した。
6	8月28日(月)	ドキュメンテーション提出①	<ul style="list-style-type: none"> • ドキュメンテーションを作成する前に、全年齢対象にできるテーマを話し合い決定する。 • 各年齢ごとに作成されたドキュメンテーションをみて、よかったことや改善点等を事前に書いてもらう。それを2グループに分かれて持ち寄り、意見交換をする。
7	9月5日(火)	ドキュメンテーションを活用しての意見交換① (テーマ：夏の遊び)	
8	9月8日(金)	ドキュメンテーションを活用しての意見交換② (テーマ：夏の遊び)	
9	11月30日(木)	ドキュメンテーション提出②	<ul style="list-style-type: none"> • ドキュメンテーションを作成する前に、全年齢対象にできるテーマを話し合い決定する。 • 各年齢ごとに作成されたドキュメンテーションをみて、よかったことや改善点等を事前に書いてもらう。それを2グループに分かれて持ち寄り、意見交換をする。
10	12月5日(火)	ドキュメンテーションを活用しての意見交換① (テーマ：秋の遊び)	
11	12月6日(水)	ドキュメンテーションを活用しての意見交換② (テーマ：秋の遊び)	
12	12月14日(木)	第2回伊藤先生巡回指導	
13	1月25日(木)	1年間の成果と今後の課題について	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度の園内研究をして良かった点(成果)と課題点について、シートに記入して持ち寄り、話し合う場を設けた。
14	2月13日(月)	園内研修まとめ完成・提出	<ul style="list-style-type: none"> • 1年間の成果と課題、巡回指導の助言から園内研修のまとめを作成し、提出する。

【伊藤先生の巡回指導を受けて】

第1回目（6月12日）

【5歳児】

- ・制作コーナーを広く確保し、思い描いているものを再現しやすいように材料を用意するといいと思う。
- ・一人でゆっくりする空間も大切だから、ゆっくり集中できるコーナーを作ってみたらいいと思う。

【4歳児】

- ・制作コーナーに人がいないため、使う道具を机に置いておく等場所を知らせる物を用意するとよい。
- ・ぬり絵を、マジックではなくて、クレヨンや色鉛筆で楽しめるように仕掛けるといいと思う。

【3歳児】

- ・大人がいる場所に子ども達が集まってきていた。
- 子どもの主体性は大事だが、「選んでほしい」ではなくて保育者が一緒に遊ぶことも大事なので、子どもを追いかけるのではなくて、大人がゆっくりと全体をみる。

【2歳児】

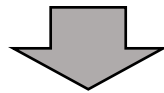
- ・感触遊びが苦手な子も楽しめるように考えられているのがよかった。
- ・ままごとに見立て遊びができるフェルトや紐などのいろんな素材があってよかったと思う。

【1歳児】

- ・目で見てわかるコーナー作りを心掛けていていいが、子ども達の姿に応じて変えることがあってもいい。
- ・前年度反省に上がっていたサークルの段差の改善はよかった。

【0歳児】

- ・色んな感触を楽しめる玩具を用意していてよかった。
- 音や手触り、形や色、温度など異なるものや手に持てるものを用意するともっといいと思う。



第2回目（12月14日）

【5歳児】

- ・子ども達が考えたアイデアが多くあり、小さい子たちが真似をしたくなるようなもので、5歳児を中心に異年齢交流が行われていてよかった。

【4歳児】

- ・以前は1人ずつやっていた制作がダイナミックなものに変わっていてよかった。
- ・制作コーナーを広げすぎず、保育者が全体を把握できる範囲に留めていたことで子ども達が制作を楽しんでいてよかった。

【3歳児】

- ・大人がいなくなっても遊べるようになったが、遊びが定着せず片付けが難しい。
- モデルとなる保育者が楽しむ姿を見せることで遊べるようになるのではないか。

【乳児組】 - 戸外遊び -

- ・1つ1つの場所にねらいをもって遊びを発展させたり、保育者同士が連携をとり、子ども達が群れて遊べる環境を整えたりするともっとよくなると思う。
- ・子ども達のやっていることを認め、離れたところにもしていた遊びを把握していてよかった。

【全体】

- ・何日間か戸外で継続して使える環境を整えてみるとより楽しめると思う。
- ・それぞれの場所に保育者を配置して、必要な物や玩具を考えられるように担当を作ってみるといいと思う。

【成果と課題】

	成果	課題
乳児	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭などのみんなの目のつくところにコーナーを設定し、人数が増えても参加できるような環境を整えたことで交流をもつことができた。 ・保育室だけでなく、廊下やテラスも活用したり朝の時間に少人数ずつ子ども達が行き来する時間を作ったりしたことで、自然と交流に慣れることができた。 ・0歳児はできることが限られ、大勢の中に行くことを怖がり、思うように参加できなかったが、戸外で一緒に遊び、沢山交流をもつことで、クラスまで入室時連れてきてもらったり、遊具や砂場などで一緒に遊ぶ姿も見られるようになりよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策もあり異年齢交流が難しい時期もあった。自然とクラスを行き来できたり、交流することができるような雰囲気作りが大切だと感じた。 ・早い時期から異年齢交流をもてていたら楽しめることが増えてよかった。 ・以上児の部屋に行くだけでなく、未満児の部屋に少人数が遊びに来てもらう機会を持てばよかった。 ・遊びだけでなく、簡単なおやつなど遊び以外の交流の場を一緒に楽しめたらよかった。
幼児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流を意識した遊びに行きやすい環境づくりができていたので、スムーズに関わりを持つことができた。 ・目につきやすい所にコーナーを設定したことにより、自然と交流をもつことができてよかった。 ・各クラスで盛り上がった遊びをそこで終わらせず全体に共有したことで遊びが広がっていた。 ・3歳児は夏の期間に保育室が使えず、いろんなクラスに遊びに行ったことにより、年上の子にしてもらったことを年下の子にしてあげるとい連鎖反応が見られ、交流が広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合った知識や経験（注意すべきことやできること等）を身に付けられるような保育者の援助が必要である。 ・部屋でお店屋さんを行う際、全体に何時からやっているのかのお知らせを事前に行ったりすれば、より3クラスの連携がとれてよかったのではないか。 ・他のクラスを自分のクラスの制作活動に積極的に誘うことができたなら一緒に楽しめたのではないか。 ・自分から交流を持つことが難しい子や苦手な子への意図的に交流することができるような援助がしてあげられたらよかった。
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が意識的に異年齢交流を行ったことで子ども達の交流につながったと思う。 ・前年度と似たテーマであったため、前回の反省を踏まえて保育にあたることができたし、子ども達の成長が見やすかった。 ・どの年齢も自然物を使った遊びを行ったことで、子ども達の興味を引き出しやすかった。 ・保育者間での連携を十分にとったことで、交流を多く持つことができたんだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人的環境がとても影響していて、保育者間での共通理解や意識のずれがあると日々の保育がうまくいかないと思うので、自分のクラスだけでなく、他のクラスとも日頃保育について話し合う機会をもっと設ける必要があるのと共に、意識改革が必要だと思う。 ・行事等もあり、遊びを継続して行うことが難しかった。 ・園内研修の期間だけに限らず、年間を通して交流ができるように「毎週〇・〇曜日はどこの部屋に行ってもいい日」といったことが行えるようにしたらよかった。 ・一つのテーマや課題を決めて、全体で楽しむことができる遊び（お祭りごっこ→食べ物屋さんや体験コーナー）を行うというより、全年齢を混ぜたグループを設定し、園全体で1つの物を作り、「全員で作り上げた」という達成感を味わえるようにしてみてもよかったのではないか。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上 	<p>保育者としてこどもの最善の利益を考慮し、自己肯定感を育む保育を実践するために、午睡時間や休憩時間を利用して話し合い、保育教諭同士が共通理解をもって保育に当たった。コロナ感染症が5類に移行され消毒・マスク着用の制限なく保育活動を行うことができた。所内研修や外部講師の指導を受けながら個々のスキルアップを図った。</p>
--	---

【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> ●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別支援計画 	<p>本市の保育理念・教育保育目標をもとに本園のテーマ「異年齢交流における環境設定」を考えた。園児の異年齢交流だけでなく、職員の交流をクラスの壁を作ることなく盛んに行い、計画・実践・反省を繰り返したことでより良い保育ができた。個別支援計画を作成し、個々の発達に合わせた活動を行ったことが他の園児にとっても良い影響となることが分かった。</p>
---	---

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流 	<p>コロナ感染症が5類に移行となり「園庭開放」が再開したり、年長児がスタートカリキュラムを基に小学校との交流会を2回行ったりと様々な行事がコロナ前のようにできるようになってきた。食生活改善会作成の「おいしいレシピ」の配布を行い、家庭でもこどもの食について考える機会を持てるようにしたことはとても良かった。</p>
--	---

【まとめ】

昨年度は「異年齢交流をもちながら成長していく」をテーマにして園内研修を行い、それによって異年齢交流を通して経験させたいことは保育者間で共有できていたが、一方でどこまで行こうかが共有できていなかったり、同じ遊びでも経験の差や年齢によって目標やねらいの違いがあり、遊びの進め方で曖昧な部分があった。そのため、年齢によっての目標やねらいを明確にして、保育者の援助や環境作りについて考え、異年齢交流を更に深めていきたいという思いから、今年度は異年齢交流を通しての友達との関わり方でみえる子どもの姿をテーマに研修を進めていった。

「異年齢交流～友だちとの関わり方でみえる子ども達の姿～」をテーマとしたことで、異年齢交流の場を積極的にもち、日々の保育を行うことができた。そのため、子ども達が色々な年齢の遊びに興味をもつことができ、自然と異年齢交流を行っていた。感染症対策もあり、異年齢交流が難しい時期もあったが朝の短い時間に少人数ずつできるようにしたり、日中自由に好きなクラスに行ける環境を整えたりして、関わりを持つことができた。一方で、各クラスで盛り上がっている遊びを全体に事前に周知できず、自分のクラスのみで、完結してしまうことがあったので、全体で楽しめるように働きかけていきたい。

今回の園内研修を通して、色々なクラスとの関わりが深くなったことで、年上の子にしてもらったことを年下の子にしてあげるといった連鎖反応が見られた。しかし、自分から交流を持つことが難しい子や苦手な子にとっては、交流することがまだ難しい様子があった。昨年度の園内研修から継続して行った異年齢交流のおかげで見えてきたこともあったが、1つのテーマや課題を決めて、全年齢を混ぜたグループを保育者が考え、園全体で1つの物を作り出すという活動を行えたらよかったという意見がでてきた。来年度はこれを踏まえて、全員で作り上げたという達成感を味わえるようなことができるようにしていきたい。また、巡回指導では、子ども達に遊びを仕掛ける際の保育者の促し方の大切さや色々な経験をさせてあげられる環境構成の重要性について学んだ。いただいたアドバイスを元に、話し合いや意見交換を行い、今後の保育に生かしていきたい。

令和5年度 園内研修まとめ

共通テーマ「生きる力を育む」

サブテーマ「一人一人が輝くための保育を目指して
～職員間の共通理解を深める～」



東金市立福岡こども園

市内保育所・こども園共通テーマ 「生きる力を育む」

昨年度サブテーマ「話そう・聞こう・伝え合おう～ごっこ遊びを通して～」から…

<子どもの姿・考察>

- ・子どもの興味をごっこ遊びに繋げていったことで、“やってみたい”“こうしたい”と、自分の思いを表すきっかけとなった。
- ・遊びの中で役割を決めながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わったり、時には衝突しながらも友達と話し合い答えを見出したり、子ども自身で考え、遊びをつくっていく力が身についてきた。

今年度の子どもの様子を話し合う中で…

<昨年度の姿から…>

一人一人の個性が強く、自分の思いばかりで小さなことでも友達と衝突してばかり…
“甘えたい”“気持ちを満たされたい”との思いが強く感じられたので、子どもの思いを受け止めることから始め、何がその子にとって最善であるか、どんな遊びに興味をもっているのかを根気よく探り、遊びや生活に生かしていった。そして今年度。避難訓練で防災クッションを上手に被れたことを、周りから褒められたことがきっかけとなり、進級したことへの自覚が芽生え始めている。個人差はあるものの、何気ない変化にも周りから認められた経験、思いを受け入れてもらえた経験が少しずつ成長として表れ、次につながるのだと改めて感じる事ができた。

子どもの個性、ありのままの姿を受け止め、信頼や愛着関係を築く中で、
一人一人が輝き、自信や意欲をもってほしい。

サブテーマ) 一人一人が輝くための保育を目指して
～職員間の共通理解を深める～

【仮説】

- ・一人一人の個性、ありのままの姿を受け止め関わっていくことで、子どもが安心して自己表現できるのではないかな。
- ・クラス単位ではなく、園全体で子どもの姿を共通理解していくことで、その子に合った関わりや過ごしやすい環境について互いに考え研鑽でき、より質の高い保育につながるのではないかな。

【手立て】



- ・クラス担任だけでなく園全体で一人一人にある“その子らしさ”を認めていくために、職員間での話し合いの場を多く設け、子ども理解を深めながら保育に生かしていく。
- ・話し合いの中で環境構成や働き掛けを見直し、クラスの垣根を越えて園全体で遊びを盛り上げていく。
- ・“できた”“できない”ではなく、その子なりの楽しみ方、過ごし方を認め、安心できる環境の中で自信をもって過ごせるようにする。

【研究方法】

- ・月1回、週案会議の中で子どもの様子や遊びの様子など伝え合いながら研鑽し合う。また、そこでの情報を各クラスに持ち寄り、職員間の共通理解を深めていく。
- ・巡回指導での助言を受け、改善点や反省点を話し合い見直ししていく。

●園内研修の経過

サブテーマ「一人一人が輝くための保育を目指して～職員間の共通理解を深める～」を念頭に置き、週案会議を利用しながら実践していく。

回	実施日	内 容
1	4月27日（木）	クラスの実態についての話し合い 園内研修サブテーマ決定
2	5月19日（金）	園内研修計画完成・提出 遊びの環境についての話し合い
3	6月16日（金）	第1回石井先生巡回指導
4	6月22日（木）	巡回指導を受け反省・課題の話し合い →資料にまとめ、全職員で共有していく。
5	7月26日（水）	5歳児の電車ごっこに焦点を当て、全職員、付箋を使って意見を出し合う。 →話し合った内容を掲示し、遊びの方向性について職員の共通理解を図る。
6	9月22日（金）	  <p>→ごっこ遊びの様子から意見を出し合い、遊びを盛り上げる手立てを考えていく。</p>
7	10月24日（火）	付箋を活用し、子どもの輝いている姿を張り出し職員間で共有する。 →子どもの姿を認めながら、遊びにつなげていく。
8	12月21日（木）	クラスの実態についての話し合い 自己評価のまとめ方についての意見交換
9	12月28日（木）	第2回石井先生巡回指導
10	1月10日（水）	巡回指導後、保育の振り返り →巡回指導で受けた課題、成果をまとめ、全職員にアンケートを実施。
11	2月 9日（金）	1年間の成果と今後の課題、園全体での反省、課題について話し合い、 園内研修まとめの作成 →各年齢での成果と今後の課題について話し合う。それを基に、園全体での反省、研修方法等はどうだったのか、意見交換をしながら1年間の保育を振り返り、次年度の園内研修へつなげていく。
12	3月 8日（金）	研修発表会
13	3月11日（月） 以降	研修発表会の映像を使用し、グループ討議

●第1回巡回指導を受けて（6月）

【良かった点】

- ・各年齢、様々なコーナーが設定されており子どもが楽しめる環境であった。
- ・子どもが主語になっている。
あえて大人が手伝わない選択→子ども自身の成功体験につながっている。
- ・子どもが“観察して模倣する”そういった姿が見られている。
- ・固定遊具に頼っていない保育がよい。
- ・戸外で十分に遊べる環境である。

【今後の課題・検討事項】

- ・子どもの人数が少なく、大人の手がある。
大人に頼ろうと思えば頼れる環境は気を付けていかないといけない。
「大人が手を出さない」「大人が判断しない」
→子どもが自分で考え、子どもが判断できるとよい。
- ・クラスごとにきれいに遊びが分かれ、異年齢児の関わりがあまり見られなかった。
もっと年齢関係なく混ざって遊べるとよい。
- ・大人の引き際を考える。
- ・子どもが考えられるような声掛けを意識していけるとよい。
「どうして?」「なんで?」と、どういう状況、どういう理由なのか、子どもが自分の言葉で伝えられるとよい。



●第2回巡回指導（12月）

助言を受けての変化（○） 今後の課題（☆）

【乳児】

- ・基本的な挨拶、言葉のやり取りが自然とできている。→保育者が見本となり自然と身に付いている。
- ☆何気ない言葉、行動を一つ一つ拾っていき、その言葉や行動の意味を家庭に伝えていく。
- ・地域柄、主に車での移動が多いので歩く経験が少ないと思っていたが、1歳児でも長い距離をしっかりと歩いている。
- ☆週に1回、散歩に行けるとよい。自然の不思議さ、美しさに目を向ける体験（sense of wonder）が学ぶ基礎につながっていく。そのことを保護者に伝えていく必要がある。
- ・子どもの姿から柔軟に遊びの環境をつくり、場を盛り上げている。
- 年上、保育者の影響が大きく反映されており、遊び方が多様である。
- 集団で遊んでいる。同じことを共有しながら遊びを楽しめている。

【幼児】

- ・散歩で行った『ぶらんこ森』での体験は園の宝であり強み。
→子どもが期待をもって歩いていて主体的な姿が見られた。
→整地されていない自然の中で、日常にない動きができるので柔軟性、平衡感覚が養われる。
→自然を五感で味わう、直接的な体験をすることは学習の土台となっていく。
- 散歩を通し、自然と異年齢交流ができている。
→年長児は自分が経験したことを年下の子に伝えていたり、年下の子は年長児の姿をじっと見て学んだり、互いに関係を深めながら遊びを楽しんでいる。
→大人も盛り上がることで子どもが惹きつけられる。
- 選択ができる環境の中で、自分で考え、判断し、行動している。
→“園で遊ぶか、散歩に行くか”、“お腹が減ったから帰るか、遊びつくすか”など、選択肢があることで子どもが主体的に活動できる。
- ☆季節によって遊び場がどう変化するのか、計画性をもってやっていくとよい。
- ☆遊びの姿だけでなく、この経験から何が育つのかを保護者に伝えていく。

●園内研修の成果と課題

	成 果	課 題
1 歳 児	<ul style="list-style-type: none"> • ごっこ遊びを通して、簡単な言葉のやりとりが楽しめるよう保育者も加わることで、遊びが広がり、低月齢児が高月齢児の模倣をして遊び、友達との関わりが増えてきている。 • 言葉や身振りなど、簡単なやり取りをしながら友達と遊ぶ楽しさを味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 一人一人好きな遊びが様々なため、子どもの遊びの様子や関心を探りながら、個々のペースや興味に合った環境作りを行っていききたい。 • 異年齢交流ができる機会を保育者が意識してつくり、子どもの学びや経験へとつなげていききたい。
2 歳 児	<ul style="list-style-type: none"> • その都度担任同士で話す機会をもち、子どもの姿から環境を整える中で、子どもが自分なりの楽しみ方を見付ける姿が見られた。一人一人の創造性に触れ、新たな一面が見られたのはよかった。 • 個の遊びから集団遊びへと広がり、友達との関わりの中でやりたい遊びを伸び伸びと楽しめるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの“やりたい”を受け止めていききたいが、ルールや安全面、発達段階など踏まえた時に、どこまで受け止めていくか、どう関わっていくか考えていく必要がある。 • 友達との関わりが深まる中で、2歳児なりに子どもたちの世界ができていっているので、必要以上に関わろうとせず保育者の引き際を考えていく必要がある。
3 歳 児	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の好きな遊びを好きな場所で思いきり楽しめるようになってきた。 • 年上児のしていることに興味をもち真似をして遊ぶ中で、遊び方やルールを学び、自分がしてもらって嬉しかった経験から、小さい友達の面倒を見ようとする姿が出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> • クラスの遊びが盛り上がり年齢の枠を超えての交流は難しく、特に5歳児の保育室には特別感があるようだった。自然に行き来できる環境を整えていく必要がある。 • 経験した遊びを4歳児のように子ども同士で楽しめるように援助していききたい。
4 歳 児	<ul style="list-style-type: none"> • ホワイトボードで事前に必要なことを知らせ、1日の活動を子ども達と一緒に考え決めていくことで、子どもが自分で気づき、考え、行動する姿が増えていったのは良かった。 • ホールを開放したことで、異年齢児と関わって遊べる機会が自然と増えていった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 取り組みには個人差があり、ホワイトボードを意識できない子が数人いた。(マグネットを貼り忘れる・意味をあまり理解できない等)一人一人の育ちに合わせた援助の仕方を行っていききたい。
5 歳 児	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたち一人一人が得意なことを発揮しながらクラスとして一つの遊びが盛り上がった。電車の旅に行ったことで、クラスで一つの目的に向かって共同的に遊びを広げることができよかった。 • 自然の中での体験が子ども自身の学びとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 年長児と年下の子の遊び方に差があり、異年齢で電車遊びをするとどちらかが遊び込めない状況になってしまった。異年齢で関わりながらも互いに満足して遊ぶための工夫が必要だった。 • 自然の中で、季節の変化を感じたり、五感を使ったりする経験をさらに増やしていききたい。
全 体	<ul style="list-style-type: none"> • 一人一人の個性を認め、自己発揮できる機会を多くつくったことで、生活や遊びの中で伸び伸びと自分を表現できるようになってきた。 • 散歩を通し、自然と異年齢交流ができた。自然あふれる環境の中で、子どもが主体的に活動できた。 • 保育をする中で疑問に思ったこと、やりにくさを感じることなど、互いの意見を聞きながら子どもの目線に立って話し合う場を設けることで、職員間の共通理解が深まってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの個性を認め丁寧に関わる一方で、必要以上に援助してしまうことも多かった。保育者の引き際を見極め、子ども自身の成功体験につながる関わりを考えていく必要がある。 • 天候や保育者の人員によって思うように散歩に出掛けられないことがあったが、週1回は安全面に十分留意し散歩に出掛けていききたい。また、季節によって遊び場がどう変化していくのか、計画性をもって自然体験を楽しめるようにする。 • 話し合いの土台ができたので有効活用し、保育の疑問や悩みを共有し、環境の改善に努めたり、園全体で一人一人の育ちを見守ったりしながら、よりよい保育を目指していく。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上 	<p>子ども自身が「やってみたい。こうしたい。」という気持ちを受け止め、一人一人の子どもの個性を大切にしながら、思いが形や現実となるように全職員が共通理解を図り取り組んだ。子どもの安心安全のため、保護者との丁寧な対話を心掛け、家庭との連携を図った。また、安全に過ごせる環境の下、園内の安全管理を定期的に行った。外部講師のアドバイスを参考に園内研修や話し合いの場において、その場にあった保育者の関わりや振り返り等意見交換をし、保育を共有することで、保育の質の向上につなげることができた。</p>
--	--

【2】 計画に基づく評価

<ul style="list-style-type: none"> ●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別支援計画 	<p>市内共通カリキュラムに基づき、一人一人の子どもの様子を捉えながら、全体的な計画、月指導計画、週指導計画、個別支援計画を作成し、保育にあたった。週指導計画会議や話し合いの場で、その時の子どもの思いを探りながら保育を振り返り、保育者の関わりや環境の再構成を見直すことで、次の保育に生かせるようにした。園内研修のサブテーマに沿って、子どもの個性やありのままの姿を受け止めることで、自分の思いを安心して自己表現でき、自信や意欲へとつながった。</p>
---	--

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

<ul style="list-style-type: none"> ●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流 	<p>保護者が安心して園に託せるように、丁寧な対応、対話を大切に、クラスボードやドキュメンテーションを掲示することで、園での様子をわかりやすく伝え、保育に対する理解をしてもらい共有できるように努めた。新型コロナウイルス感染症が5類となった時点で、園庭開放が再開し少しずつ利用者が増えてきている。地域の「おひさまの家、おひさま文庫」との交流を続け、絵本の貸し出し、サツマイモ苗植えから収穫、庭の開放などいただき、貴重な体験をすることができた。</p>
--	--

●まとめ

今年度は職員の入れ替わりが多く、子どもの様子や遊びの進め方など、職員の考えや思い、保育の方向性を確認することから始め、「一人一人が輝くための保育を目指して～職員間の共通理解を深める～」というサブテーマを設定し園内研修を進めてきた。

研修では、取り組んでいる遊びや子どもの様子について、話し合いや付箋等で意見を出し合い、職員の共通理解を図りながら園全体で遊びを盛り上げるための手立てを見出ししていくことができた。保育者の意図とは違う展開になることも多く、保育の難しさを感じつつも、その都度子どもの姿を確認し合い、次の展開について新たな手立てを一緒に考えながら取り組めたのはよかった。

また、遊びの面だけに捉われず、園の特性、強みは生かしながらも、今まで当たり前に行っていたことが子どもにとってはどうなのか、負担になっているのではないかと、子どもの目線になって考える機会となり、“一人一人が輝くための保育”とはどういうことなのかを、話し合いの場を通して考えていくことができた。まずは職員の意識として、個々の姿に焦点を当て一人一人の個性を認めていったことで、子どもは自分を認めてもらえた安心感、自己表現することの楽しさ、面白さを感じることができたのではないかと考える。

その一方で、ルールや安全面、発達段階など踏まえた時に、どこまで子どもの思いを受け止めていくのか、どう関わっていくのかが課題となっている。また、丁寧に関わるあまり、必要以上に援助してしまうことがあったので、保育者の引き際を見極め、子ども自身の成功体験につながる関わりを今後も考えていく必要がある。異年齢交流については散歩を通して深まった面もあるが、クラスの遊びが盛り上がると年齢の枠を超えての交流は難しくなると感じたので、年齢に関係なく自然に行き来できる環境作りについても次年度に向け話し合っていきたいと思う。

研修を重ねる中で、日々の保育の中での疑問、やりにくさを感じる事など、思いの丈を話すことができ、職員間の共通理解につながったのは大きな収穫であった。何気ない会話の中でも、子どもの姿について楽しく語り合うことも増えているので、その雰囲気や基盤としながら、今後も意見の出しやすい環境作りにも努め、園全体で一人一人の育ちを見守りながら、よりよい保育を目指していきたい。